

議 事 録

件 名	第 28 回（令和 4 年度第 1 回）セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会	
日 時	令和 4 年 6 月 27 日（水） 15：00～16：35	
場 所	公社会館（メルクス）2 階会議室	
出席者	委 員	濱本委員長、近藤委員、内田委員、漆原委員、桑島委員、上村委員、赤裏委員、高尾委員、上村委員、藤原委員、藤木委員、柴尾委員、野口委員
	事務局	（長寿支援課） 植松補佐、水落主査、稲益主査、坂本 （安全安心推進課）柳主幹、岡補佐、浦部、古賀
欠 席 者	無し	
傍 聴 者	無し	
次 第	1 開会 2 報告事項 （１）今後の主なスケジュールについて （２）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について 3 協議事項 （１）2021(令和 3)年度実績及び 2022(令和 4)年度方針（案）について （２）事前指導のプレゼン資料（案）について （３）広報啓発について 4 その他 （１）合同対策委員会におけるワークシートに関する報告 5 閉会	
質 疑	1. 開会 （傍聴希望者なし） 2. 報告事項 （１）今後の主なスケジュールについて （２）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について （質疑・応答なし） 3. 協議事項 （１）2021(令和 3)年度実績及び 2022(令和 4)年度方針（案）について < 委員長 > 久留米市民の意識調査の 5 ページの下から 7 行目で、家庭内でのけがや事故が平成 29 年度と令和 3 年度を比較すると若干増えている。コロナの影響で開催できない取り組みが 2 年間続いたため、転倒に対しての不安が増しているということが納得できる資料となっており、そういった説明もできるのではないかと思います。 セーフコミュニティに関する実態調査の報告書 11 ページ。転倒予防パンフレットの認知状況について知らない方が 8 割強となっている。 「知らない方が多いな」と思っていたが、パンフレットだけに焦点を絞っていくのはどうかと思う。パンフレットも媒体の一つではあるが、こげんよか体操や動画など転倒予防についてはいろいろな取り組みがある。その取り組みについて知っていたらお答えくださいという聞き方をしたら実態が見えてくるのではないかと。 どうしてもコロナの状況で 2 年間でできていなかったもので、今回の方向性としては、実践していくという方向性になるのではないかと。実態調査や市民意識調査にしても、聞き方を工夫して実態を反映するようにしていかなければならないと思う。	

< 委 員 >	(2) 事前指導のプレゼン資料(案)について 自主グループ支援の話について、良い取り組みだと思う。 高齢者の地域住民の団体に元気リハという自主グループをつくっていく取り組みをさせていただいている。コロナでなかなか会えなかった、取り組みができなかったところがほとんどだったが、いま徐々に動き始めている。どこに相談したらよいかわからないということで自分たちの事業所でも直接相談を受けている。市全体で、住民含めてみんなでそういう取り組みをやっているということがアピールポイントの一つになるとするならば、包括さんもいるので、「みんなでやっている団体も以前よりは増えたよ。地域住民もそういう意識で取り組んでます」というのも載ると良いと思う。 数は包括さんも知っていると思うし、コロナでできないところもあるがもともと取り組んでいたところは復活してきているので、住民たちだけでもやっているよというのが載ると訴求力があるかなと。
< 事 務 局 >	自主グループは増加しているが、過去の統計は統一的な見解で取っていなかったもので、経年的な比較が難しいところはある。 そういったグループが増えてきているという数値的なものがないかというところは、お話のとおりで、自主介護予防を自分たちですするというのはアピールポイントになるかと思うので検討したい。
< 委 員 長 >	自主グループは何年前から？
< 事 務 局 >	3, 4 年前。
< 委 員 >	それ以前から仕掛けはしてきたが、その時にリハ職として派遣をされて（活動を始めた）というような団体もあって、意識的には上がってきていると思う。 住民の中でも「せっかく集まるなら体操の一つでもしようか」と意識が向上してきたみたいなことも出ると良い。
< 委 員 長 >	自主グループができてきた背景は、教室タイプでは来る人が決まっていたり、そこではやっても自宅で継続的にやってないといったことから、自分たちで運営していただくようにしたら積極的に継続的にやっていただけるのではないかという中でできてきた。だからそんなに古いものではないので、データもそんなに無い。 取り組みの中で、普段の暮らしの中で積極的に転倒予防・介護予防に対して参加していただくという意味合いで新しく生まれたもの。
< 事 務 局 >	繰り返しにもなるが、自主グループの数は過去に取れていない。自主グループという言い方も最近になってからだ。例えば老人クラブの活動だったり、校区社協でもサロンで体操をやっていたりといったこともこれまで（されてきた）。老人クラブの活動にも講師を派遣していたりして重複している部分もある。何らか自分たちでやっているというのを統計的にもとっていけると良いと思うので、今年度、高齢者の実態調査もやるので、その中でも入れられないか検討したい。

議 事 録

< 委 員 長 >	ぜひ検討をお願いします。
< 委 員 >	高齢者の問題で一番力を入れようとしているところはどこになるのか。
<事務局>	高齢者の問題はいろいろあるが、大きくはこの安全対策委員会でも書かせてもらっているように転倒によるケガが一番多く、ケガをする場所は自宅が多いこと。 転倒しないような体力づくりや、社会参加をするのが一つと、転倒する場所が自宅であることを認識して生活してもらうような意識を啓発すること。 虐待の件数は変わらず、少なくなっていない。虐待される側が認知症で、虐待する側が介護者である親族の例が多いので、認知症について正しい理解をしていただくための啓発に力を入れていきたいと考えている。
< 委 員 長 >	転倒予防で検討しないといけないと思ったのが、レジュメの１０ページ目、介護・介助が必要となった原因が骨折・転倒というグラフについて。 ここで示しているデータはあくまでも、介護・介助が必要になった、その原因が骨折・転倒ということ。 転倒予防の取り組みをしていると、介護・介助は必要なくなる。そもそも転倒予防の取り組みをしている人が増えていくと、ここの母数には入ってこないの、この数値が取り組みの指標を反映しているのかどうか。そこらへんが、指標としてももう一工夫が必要なのは。
<事務局>	高齢者の実態調査での数値は、一般の高齢者 3,500 人と要支援の高齢者 1,500 人に対して介護とか介助が必要になっているかという問いと、その原因は何かについて尋ねた回答になる。介助・介護が必要となっていない方は答えていないので、この中に含まれていない。 一方、その要因として（転倒・骨折の）割合は増えてきている。 高齢者も増えているが高齢者の中でも高齢化がさらに進んでいる状況。そういう意味では啓発だけではなくて、そういう 75 歳以上、85 歳以上の方の数がどんどん増えて 65 歳以上の方よりも増えてきている年齢の要素も若干あるのかなと思うが、因果関係が全て分かっているわけではない。 委員長がおっしゃる部分が含まれていないのはあるが、まだ分析はできていないのが現状。
< 委 員 長 >	直接、実態をつかむことができる資料があればよいが、直接表すデータもなかなか無いからもう一工夫が必要。
< 委 員 >	実際、虐待があった場合の処置はどうしているのか。どうすればいいか。

議 事 録

< 事 務 局 >	在宅で虐待の通報があった場合は、ご本人や周りの方に聞き取り調査をさせていただいて、虐待かどうかどういふ状況なのかを聞き取りさせていただく。その中で命の危険が及ぶ、事件性がある場合は、分かれて施設とかに入ってもらい、分離をさせていただく。 ただ、一方で同居親族が多くて親身に介護されている方もかなり多い。ずっと虐待しているわけではなくちょっとイライラしてということもあるので、介護サービス、ヘルパー、デイサービスなどを入れて、在宅での継続をさせていただく。話を聞いてそれに対してどういうサービスなどをしたらそこが一時的に治まるのか、それが継続するのかを見守ってサービスとかを入れさせていただいているのが現状。
< 委 員 >	連絡するのはどこになるか。民生委員か。
< 事 務 局 >	相談は市（長寿支援課）や包括支援センターなどに言ってもらえれば。
< 委 員 >	民生委員でもよいか
< 事 務 局 >	民生委員からも包括支援センターや市に連絡をしてくれると思う
< 委 員 >	北包括で実際に対応をしているが、4月に4件の虐待に関する相談があった。月に4件は多いと思う。精査していく中で虐待に該当しないケースもあった。 長寿支援課に言っていただくのでもよいが、包括支援センターに一報連絡をしてもらえれば。 虐待を受けた被虐待者側だけではなく、擁護者（虐待している方）に対しても支援をさせていただく。している方はしている方なりに何かしらがあっけづつてらっしゃるのかもしれない。複数人で虐待は対応させていただいている。 長寿支援課の担当とも連携して対応しているので何かあればご相談をいただきたい。
< 委 員 >	体験したことは無いが、起きたら急を要する問題なので。
< 委 員 長 >	相談できるところがあれば、虐待防止にもつながる。何でも相談してもらえれば。
< 委 員 >	認知症（の方）を抱えている家族は虐待しない人はいないと思う。おんなじことばかりずっと言われたら「うるさい!」となってしまう。 家族のことを理解してあげないといけない。家族は、家族の人たちが集まる、お話をちゃんと聞いてくれるところに行けるような雰囲気づくりをしてあげることが大切。 誰もしたくてやっているわけではない。今言ったことをまたやるから。そういうところに行って自分がやっと、ほっとできる。それを偉そうに「それはいけないことだ」とか言われても、全然話が通じないよねとなる。
< 委 員 長 >	被虐待者、虐待者の両方のサポートが必要ですね

議 事 録

< 委 員 > < 事 務 局 >	(3) 広報啓発について (質疑・応答なし) 4. その他 (1) 合同対策委員会におけるワークシートに関する報告 ワークシートの意見の高齢者安全対策委員会の4-3の中ほどに「認知症に自分もなるかもしれないという不安感を持ってもらい」という記述について。 同じ意味合いで別の表現にできるのではないかと思う。パッと読んだときに誤解が生まれそうなので。出された意見ではあるが、言い換えで検討できるのではないか。 そういうリスクについては思いが及んでいなかった。よく相談したいと思う。 5. 閉会
---	--